



イノシシ・サルだけじゃない?! 密かに広がるネズミ被害

●ネズミの隠れ家をなくそう
ビニールハウス周りの被害であれば、トタンなどを用いて物理的に侵入を阻止できます(図1)。また、周辺を整頓し、隠れ場所となる狭い空間を減らすことも有効です。

●ネズミの被害のあるところを特定する
①穴の周りに塚(穴掘り時に土を地表に押し上げたもの)がないか確認する。
(20写真写真1)

②細長い「ふん」を見つける
(写真6)

浪江町の被害状況

町内では、昨年水稲被害のほかに花の球根が被害されたり、ビニールハウスに侵入する被害が報告されました。

ネズミの特徴について

ネズミは、天敵となる猛禽類やヘビから身を守るために、見通しの悪い場所を好みます。また、伸び続ける歯を削るため、様々な農作物を食害することが知られています。ネズミは、前項で紹介した通り、地中に穴を掘る習性があり、地中15〜30cm程度まで穴を掘ることができます。



写真6 ネズミのふん



写真5 モグラ穴
直径30cm程度の塚が目印



写真4 捕獲されたネズミ
撮影 福島県避難地域鳥獣対策支援員

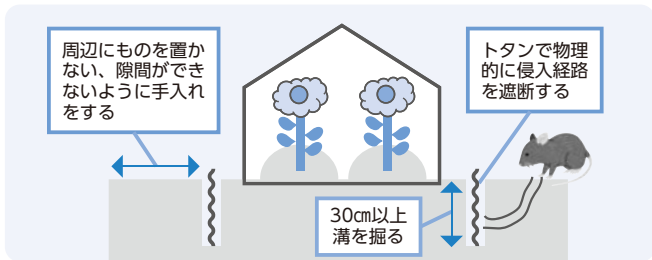


図1 ネズミの侵入を防ぐ対策

被害拡大に注意!
最近になり、報告が増えてきた被害であるため、有効な対策があれば今後情報共有していきます。並行して、被害の全容把握していきたいと考えておりますので、ネズミによる被害があればご連絡ください。

農林水産課の有害鳥獣対策を紹介

防護柵の貸与(出荷を目的とした農地に限る)

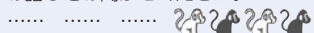
追い払い花火の配布

鳥獣被害に関する勉強会



有害鳥獣の対策には地域の皆さん一人ひとりの力が必要です。

皆さんの鳥獣対策がありましたら、是非お話しをお聞かせください。

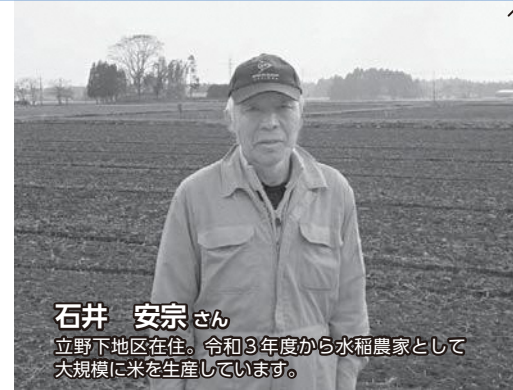


☎ 農林水産課農林水産係
☎ 0240(34)0246

INTERVIEW

みんなの鳥獣対策

浪江町の地域課題「鳥獣被害」を防ぐ、軽減させるため、地域で取り組む鳥獣対策を紹介します。



石井 安宗さん
立野下地区在住。令和3年度から水稲農家として大規模に米を生産しています。

■加害獣種を教えてください
ネズミです。

■いつから、どんな被害がありましたか?
令和3年から畦畔に穴をあけられる被害や、稲穂を食いちぎられる被害が続いています。6〜7月頃、20cm程度伸びた稲穂が食いちぎられたようです。田んぼの全域ではなく、畦畔から4〜5m程度離れた田んぼの中心部で被害を受けています。昨年は20〜30kg程度の被害でした。

■対策のきっかけを教えてください
震災以前は、2月頃に焼き畑と並行して殺鼠剤散布を行っていたことを思い出し、自分でもやってみようと思いました。

■具体的な対策方法を教えてください
畦畔のネズミが掘った穴に殺鼠剤を散布しました。市販の小袋に梱包された殺鼠剤を40袋、直接穴の中に入れました。穴が非常に多かったため、初回は散布量が大きく負担になっていました。

二度目の散布からは、畦畔にできた全ての穴をふさぎ、1週間ほど経過した後、新たにできた穴に散布しました。穴の総量が減ったことで三分の一度散布量を削減することができました。また、散布は冬に行いました。冬は農作物が無くなり、殺鼠剤への食いつきが良くなると判断したためです。

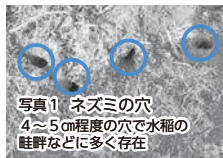


写真1 ネズミの穴
4〜5cm程度の穴で水稲の畦畔などに多く存在



写真2 散布済みの殺鼠剤

■今後の意識込み、伝えたいこと
水稲被害をなくしていきたいです。また、除染できれいになったこの地域を維持していくためにも、作付け面積を増やしていきたいと考えています。大きな収入を得られる仕事ではないですが、故郷を守っていくためにも農業を続けていきたいです。

※殺鼠剤を農地を使用する場合は必ず農業登録のあるものを使用してください。

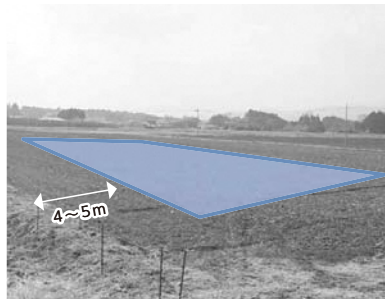


写真3 6〜7月頃、青のエリアで被害が発生